

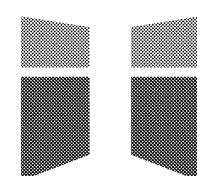
2014年秋季完成予定の本社ビル



製造業に向け、新たな扉を開く！

2月24日、摂津水都信用金庫(大阪府茨木市)と十三信用金庫(大阪市淀川区)が対等合併し、「北おおさか信用金庫」が誕生した。預金量が合わせて1兆2499億円(12年3月末残高ベース)となり、信金では全国22位、大阪府内3位の規模となる。大阪北部エリアで営業区域がほぼ重複する両金庫にとって、今回の合併は互いの強み伸ばし地域産業力を高める狙いがある。金

融機関および中小企業を取り巻く環境が変化する中、多様化、高度化する顧客ニーズに応えるには自らの経営変革が不可欠と言える。そこで「時代に即応したサービスを提供し地域社会への貢献を目指す。土手基史北おおさか信用金庫理事長と、同金庫のシンクタンクとしてコンサルティング機能を発揮する大阪彩都総合研究所松本社長に新金庫の方針を聞いた。



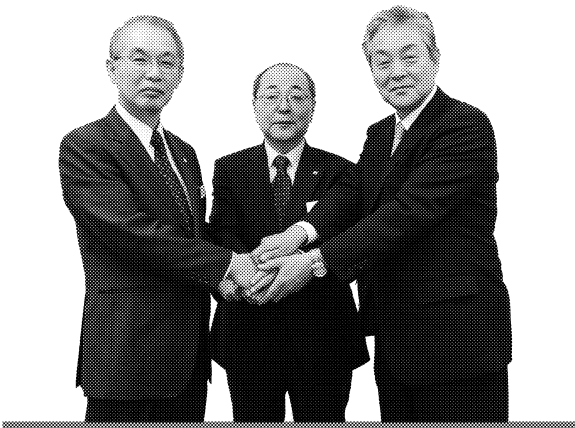
北おおさか信用金庫



北おおさか信用金庫 理事長
土手 基史氏

井水 摂津水都信用金庫と十三信用金庫が2月24日に合併し、「北おおさか信用金庫」が誕生しました。信用金庫は地域密着型の金融機関です。合併によって経営基盤がより強固になることは、両金庫の営業エリアにある事業者にとって大いにプラスになることでしょう。両金庫が持つそれぞれの強みを組み合わせることと相乗的に地域産業力を引き出されることを期待します。合併に至った経緯とその意義をご説明願います。

三信金と、個人顧客のウェイトが高い摂津水都信金が合併しました。地域に密着した互いの強みを伸ばし、弱い部分を補完していく狙いがあります。同エリアで違った顔を持つ両金庫は、合併の最良の相手先。我々にとって北大阪地域でしっかりと信用金庫を後世に残していくことが共通の目的です。また新金庫誕生によりエリア内87店舗の稠密なサービス拠点が構築されました。今後はお客様にご不便・ご負担をおかけしないよう店舗調整を進めてまいります。営業エリア内



井水 中央・地方銀行含め、一般的に預金量に対し融資量が伸びない傾向にあります。さらに、モノづくり・地域産業はグローバルな競争に翻弄され厳しい状況にあります。こうした中、オンライン企業の業態や各企業が有する技術やノウハウ、融資への道を開いていただくことが産業発展への後押しになると思います。

土手 現状、当金庫の預貸率は50%前後で推移しています。地元から集まったお金を地域に還元するためにも、今後は預貸率を高める運営が課題です。

一方、モノづくりへの融資機会が金庫職員の目利き力が重要になります。オンライン企業の発掘やベンチャーの仕事を理解することは難しいですが、当金庫には大阪彩都総合研究所という頭脳があります。総合力で目利き力を培い、職員のレベルアップや実地認識に磨きを掛けていきます。さらに新金庫では十三信金が培ってきた海外資金支援のノウハウを発展拡大し国際部を独立させ拡充しまし

た。地元企業の国際展開を支援できればと考えています。

井水 特に製造業向けの取引では十三信用金庫のシナジーが発揮されます。さらに、そこで大阪彩都総合研究所の力も生きているわけですね。新市場の改革や高付加価値製品の創出に向けてどのような支援をお考えか、お聞かせ下さい。

松本 中小製造業の最大の悩みは販路開拓です。下請け的業務が大半を占める中、独自技術や付加価値を重視した製品開発をアピールする企業は少ないようです。こうした点をサポートし産業活性化を図るため、当社では1999年から毎年「ビジネスマッチングフェア」を開催し、3000人の来場がありました。その内、中身の濃い商談が1156件展開されました。また、学生の来場を促し、出展企業の就職活動にも取り組んでいます。一方、経営の基礎を学べる「経営者大学」も好評。各分野の専門家を講師に招き、若手経営者の育成に貢献しており

“軒”シェア拡大が信頼の証 多様な支援事業で豊富な実績 地域力強化に積極的な融資を

で仕事に当たる地元に通じた職員が顧客にとってよい良いサービスを提供いたします。

井水 両金庫は営業エリアがほぼ重複していますが、それぞれ特徴を持って営業してきたわけですね。また北おおさか信用金庫(旧・摂津水都信用金庫)のグループには、会員組織のシンクタンク「大阪彩都(さいと)総合研究所」があり、セミナーやイベント、コンサルティングなど取引先の総合的なサポートを手がけておられるのも特徴です。近年、信金のシンクタンク設立が増えています。が、彩都総研は2002年設立の先駆けであり、早のから実績を積み重ねてきたことも強みですね。他の信金のシンクタンクと比べ一日の長があると思いますがいかがですか。



大阪彩都総合研究所 社長
松本 明夫氏

松本 当研究所はおもに北大阪地域の調査を行い、5400事業所を超える会員企業向けに役立つ情報を提供。シンクタンク設立に向けた運営方法など、他地域の信金/ノウハウを提供しています。当社は地域の自治体や商工会議所などと連携を図り、コンサルティングや数

件におよぶ対応実績があります。海外事業や技術革新など多様な分野に至る相談には、専門家とのコーディネート契約を交わし対応。これまでの賛同事項(約200例)をまとめた冊子も制作中です。その実績と信頼から政府の就労支援や中小企業庁が展開する中小支援事業「ミラサポ」などの取り扱い窓口としての役割を担っています。その他、各種セミナーやビジネスマッチングなど業務は多岐に渡っています。

井水 非常に広範な事業を展開されています。行政や経済団体、各分野の先生方との連携を図ることで、細やかな顧客対応を実践されているようです。まさに北おおさか信用金庫グループの強みになっている訳ですね。今後、新金庫移行に伴いシンクタンク機能を高めたいと思いますか。

松本 顧客拡大により会員の増加が想定されます。会員の増加に伴い研究所の責任も高まってきます。金庫運営では単に預金や融資、為替だけでなく、ひと味加えた顧客サービスが強みになります。今後は地元に通じた職員と稠密な店舗配置を武器に、これまで以上に顧客との接触密度や頻度を高めていきます。我々が意識しているのは金額シェアだけではなく、顧客一人一人を意味する「軒」の増大です。軒シェアが地元金融機関に対する信頼、ご指示の証であり、軒シェアの向上により金額的シェアの拡大も構成されると認識しています。



日刊工業新聞社 社長
井水 治博

井水 学生は事業プランは地域に密着した内容が多く提案されています。また起業実績が100件に近づくなど、確実に事業目的を達成してきました。今後とも同事業の発展のために協力をお願いいたします。また、連動して御金庫は産学連携のサポートにも力を入れておられます。今後は産学官の関係に、重要な「金」をどのように絡めていくかが大きいです。

井水 お話を伺っていて、合併によって地域での存在感が一段と高まると感じました。地域産業の活力向上に、さらなる貢献をしていただけたらと思います。本日はありがとうございました。

井水 大阪の東大阪、東京では大田区など、その地域の中で多様な業種が連携し、製品を創り上げる事例があります。今のお話を聞くと、北大阪地区でもモノづくりのサプライチェーンが機能するのはないでしょうか。今後は自治体や地域を越えた広いマッチングへの事業展開を期待しています。

土手 信用金庫は地域単位で仕事をしていますが、信金のネットは近畿をはじ

め全国を網羅している。発信点および着信点になることで、顧客の求めるサービスを広域に展開することも可能になります。

井水 私ども日刊工業新聞社は、北おおさか信用金庫(旧・摂津水都信用金庫)さんと「キャンパスベンチャーグラ」ンフリ大阪を共催させていただいております。全国に先駆けて大阪で誕生したビジネスプランコンテストで、大阪大会は第15回を数えました。全国大会も開催しており、今年10回目を迎えました。学生に起業を促すことで産業活性化を図る社会的に意義のある事業として、今後も発展・拡大を目指します。理事長の思いをお聞かせ下さい。

土手 当金庫にとっても思い入れの深い事業です。大阪で産声を上げたきっかけを日刊工業新聞社と創り、今の成長に繋がっていることに誇りを感じます。さらに最近では事業に結びつきやすい現実的なプラン提案が増えてきています。加えて、社会的ニーズに真正面から応えて

この街の未来をひらく。

北おおさか信用金庫